

● 中国

松本憲治

広島。広島交響楽団は、まず定期公演は1月(第386回)～11月(395回)までの10回。1月、2月、3月は「愛」、4月～12月は「緑」というコンセプトタイトル。終身名誉指揮者・秋山和慶は7月の定期で指揮、音楽総監督・下野竜也の指揮は2月(387回)と5月(399回)そして9月の定期では「日本・ポーランド国交樹立100周年」としてショパン(没後170年):ピアノ協奏曲第1番、矢代秋雄(生誕90年):交響曲、ピアノ:清水和音。その他6月定期ではイルジー・ローゼン指揮で、ステンハンマル:交響的序曲「エクセルシオール」、ニルセン:交響曲第4番「不滅」、グリーグ:ピアノ協奏曲。ピアノは奥井紫麻。定期を振った秋山、下野以外の指揮者は、3月チャールズ・オリヴィエリ=モンロー、4月レオポルト・ハーガー、6月イルジー・ローゼン、10月リオ・クオクマン、11月シルヴァン・カンブルラン。会場は全て広島文化学園HBGホール。

8月5日に恒例の「平和の夕べコンサート」。細川俊夫「Lied V」～チェロとオーケストラのための(仮題)(広響委嘱:世界初演)など。指揮はクリスティアン・アルミンク、チェロ:ステイーヴン・イッサーリス、ホルン:ハビエル・ボネ。

共同主催中国新聞社、共催:(公財)広島市文化財団として、これも恒例のディスクバリー・シリーズを4回。1月シェンベルクVn協奏曲。Vn.は川久保陽紀。年度変わって「ベートーヴェン生誕250周年交響曲シリーズ」としてベートーヴェンの交響曲の他、毎回細川俊夫の曲、5月「雲と光」笙とオーケストラのための、10月ピアノ協奏曲「月夜の蓮」～モーツァルトへのオマージュ、12月トランペット協奏曲「霧のなかで」。指揮は下野竜也。

「日本・ポーランド国交樹立100周年」として6月にペンデレツキ:平和のための前奏曲などを広島文化学園HBGホールで。指揮はクシユトフ・ペンデレツキ。8月17日にはワルシャワ・フィルハーモニーホールでワルシャワのオケ、シンフォニア・ヴァルソヴィアと合同でベートーヴェンの第九、指揮は秋山和慶。翌18日にはペンデレツキ:広島の犠牲者に捧げる哀歌、藤倉大:オペラ「ソラリス」からの管弦楽組曲など。指揮は下野竜也。

広島市文化財団のひろしまオペララネッサンス事業。9月にオペラ「魔笛」を2回公演。指揮:川瀬賢太郎、演出:岩田達宗。2月にオペラ合唱団公演、オペラ「魔笛」抜粋。指揮:寺沢希、演出:池沢嘉信。また、「青少年のためのオペラ&音楽事業」としてオペラ「ヘンゼルとグレーテル」を広島の歌手で7月～8月、計4回巡回広島市内、および岩国シンフォニア(山口)で公演している。

地域のオペラ団体公演、まず広島オペラアンサンブルが2月に「アメリア舞踏会に行く」「ザネット」(演出:豊田千晶)。5月に「ねじの回転」(演出:アンダ・タバカル)。指揮:齊城英樹、広島シティーオペラが8月に「道化師」「ジャンニ・スキッキ」を。指揮:奥村哲也、演出:三浦安浩。

また中高生による広島ジュニアウインドオーケストラを結成、4月より講習を開始。講師は下野竜也。

細川俊夫を音楽監督とした現代音楽事業として、「次世代の

作曲家たちVI」を6月に。委嘱作曲家として、神山奈々、小出雅子、フェデリコ・ガルデッラ。演奏は広島交響楽団。

東広島市では、芸術文化ホールくららを拠点に、まず東京藝大早期教育リサーチセンターとの共催による「早期教育プロジェクトin東広島」が2月に。芸大生によるランチタイムコンサートと伊藤恵による公開レッスン。また、オペラ団体、ヴィータ・ムジカレーとの共催によるオペラ公演「仮面舞踏会」が2月に。指揮・演出:もりてつや。また3月に所属の東広島くららジュニアオーケストラ第四回定期演奏会。

福山市。10月に「ばらのまち福山・国際音楽祭」を開催。4日間、リーデンローズの大ホールを中心に近隣の福山沼隈サンバル文化ホール、神辺文化会館などで全20公演。ハンガリーのオーケストラ、ジュール・フィルハーモニー管弦楽団を招聘し、ふくやま祝祭管弦楽団、合唱団を一般募集で結成、指揮はベテール・ドブゼイ、松井慶太、池辺晋一郎など。

廿日市市では、芸術文化ホールさくらびあを拠点に来年度から正式に発足する「はつかいち室内合団「SA・KU・RA(さくら)」と「はつかいちジュニア弦楽合奏団「NO・ZO・MI(のぞみ)」が10月の「はつかいち平和コンサート2019」で紹介演奏。また室内合奏団メンバーが市内全小学校17校に「ほほえみコンサート」として学校訪問コンサート。これは廿日市市教育委員会との共同制作で継続することに。

岡山。まず岡山シンフォニーホールを拠点に岡山フィルハーモニック管弦楽団が58回定期の1月ニューイヤーコンサートから10月の62回定期まで5回の定期。指揮は首席指揮者のハンス・イェルク・シェレンベルガーと園田隆一郎。12月には第九を。指揮:村上寿昭、合唱は一般募集の「岡山第九を歌う市民の会」。岡山ジュニア・オーケストラは8月に第55回定期演奏会。指揮:水戸博之。

岡山国際音楽祭2019が9月28日～10月14日の期間に。軽音楽・ポップス、街角コンサートなどの他、クラシック公演は「子供オペラ・プレーメンの音楽隊」や、野外での「オーケストラと歌の祭典」を。福嶋頼秀:指揮・編曲。歌手は岡山出身の佐藤瞳(Sop.)松浦恵(Mez.)杉浦奎介(Tn.)。

山口。シンフォニア岩国では「合唱曲を委嘱する会“岩国”」との共催で、4月に合唱作品初演演奏会20として公演、委嘱曲の鈴木純明:「混声合唱とピアノのための編曲集〈世界の街角から〉」他、「木と鳥のエピグラム」など。指揮:田中信昭。秋吉台芸術村では、4月に第8回秋吉台音楽コンクール。コントラバス部門と弦楽四重奏部門。4月に室内楽セミナー&コンサート「秋吉台の響き2019」。Vn.漆原啓子、Va.須田祥子、など。

鳥根。鳥根芸術文化センター・グラントワ関連。3月にグラントワ弦楽合奏団が第8回定期演奏会を。ゲストは東京アーティスツ合奏団。5月に浜田市でスプリングコンサート、10月にオータムコンサート。オペラ「石見神楽」が、主催:カンパニー・イーストオペラ「石見銀山」実行委員会、10月、東京文化会館で。作曲:中村匡宏、Sop.:坂井田真実子、Alt.:松浦麗。大屋神楽車中、東京室内管弦楽団。

鳥取。とりアート2019のメイン事業「鳥取銀河鉄道祭」が「祝祭的移動型音楽劇」として、4月米子児童文化センター、7月に倉吉未来中心ホール、11月に鳥取、とりぎんホールで4回公演。野村誠作曲。